

好景気「人手不足」の影響か？ クリーニング老舗の『白洋舎』 消費者トラブル

安倍晋三内閣の懸命の『景気回復政策』
が功を奏して失業率が下がった。

しかし、おかげで「人手不足」は顕在化している。

人手不足なら他社より高い給料を出せばよいと思うのだが、そうはならないのが昨今の世知辛さ。

こんなことを書くと「金犬魔者」や「金の亡者」が「それ、人件費の安い海外から労働者を入れろ!」「外国人労働者の待遇を今までより少しだけ良くすべきだ」との声が大きくなる。

金持ちが肥え太り、庶民との経済格差が大きくなる。

欲に目のくらんだ「人間豚」の誘導する外国人労働者の雇用促進は日本人の雇用を圧迫し、その結末はヨーロッパのような「人口流入による国家の破綻」だ。

企業経営者は目先の利益を優先し「日本人を雇わず、外国人労働者でこたく金儲けを考える」。過剰な内部留保を持ち社員への給料・ボーナスの支払いをケチる。

おかげで、日本の景気は今だに完全回

復とはいかない。

目先の利益を優先し「日本人を雇わず、外国人労働者でこたく金儲けを考える」。この手合いはどこの国にもいるが、ここは日本人の国だ。

日本の国なら日本人の働く場所を確保しなければならない。

決して、外国人を日本人以上に優遇してはならない。外国人が不法に居住し、日本から退去しなくなればこの国は日本人の国ではなく、外国人のための国になってしまう。

いずれ、こんなことを続けていけば、外国人と日本人労働者の間で紛争が起きることになる。血みどろの戦いになるに違いない。

しょせん相手は日本人ではない。

教育や育った環境の違う外国人なのだ。

日本人的な甘っちょろい発想では対処できるものではない。殺し合いになることもあるかもしれない。

外国人労働者を雇うということはそういうことなのだ。

アメリカのように「銃社会」でないことが救いではあるが、紛争となれば銃が持ち込まれるかもしれない。庶民レベルで一度持ち込まれてしまえば、あとはなし崩しだ。庶民レベルの紛争、衝突とはそういうものなのだ。

安倍晋三政権の怪しげなところは「外国人労働者をどんどん受け入れる」姿勢だ。岩盤規制の特区を「ドリルで穴をあける」と言うが、まず、日本人の給与所得を上げることが最優先事項じゃないでしょうか。

ジャケット

2018年5月23日

預け番号012499 (1)

お渡し予定5月24日

ジャケット 03679…青 ローヤル

「5月24日の夕方に工場から店舗に届く」(山本さん)と言うので、余裕をみて「25日に行きます」と話して約束の5月25日に取りに行く。

5月25日、いくら探しても見当たらず「工場に問い合わせてみます」と山本さんが言うので帰って連絡を待つことにした。しかし、25日・26日両日連絡がこない。

27日、朝10時ころ、問い合わせのため電話をするが2回かけても電話に出ない。

3回目ようやく電話つながる。

「ローヤルクリーニングで出しているジャケットは届いていますか？」と聞いても要領を得ない。

どうやらワイシャツと間違えて探しているらしい。

「ワイシャツは届いている」というので、私は「ワイシャツのことを聞いているのではない、ロイヤルで出したジャケットの件だ。5月25日に届いていないので、受け取れなかったではないか。山本さんは『工場に電話して確かめます』といったけれど25日、26日と連絡がない。それでは「紛失した」のかどうか分からない。

お客の衣類を預かる、上場企業の自覚があるのだろうか？

無事に届いているなら「届きました」と連絡するのが当然のマナーと思うが、そうは思わないのだろうか？

「白洋舎」はマナー教育の徹底が必要だと思う。

「白洋舎」といえばキリスト教信者の多いことで知られている。クリーニング業では早くからの上場企業だ。

その「白洋舎」に「マナー教育の徹底」をクレームしなければならぬことが悲しい。

